

第8回新生匝瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成23年8月18日（木）

◆現地確認 午後2時50分～5時10分

- ①堀川浜海水浴場（現在開設中止）
- ②のさか望洋荘
- ③野手浜
- ④野手浜総合グラウンド
- ⑤長谷浜
- ⑥吉崎浜
- ⑦吉崎浜野外活動施設
- ⑧内裏神社

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、越川八代枝、橋場永尚

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子

（6人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃

（団体推薦者）安藤建子、萱森孝雄、越川竹晴、鈴木和彦

（一般公募者）永野亮太、林暁男、八木幸市 （9人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

◆会 議 午後5時20分～7時15分

開催場所：八日市場公民館視聴覚室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川八代枝、橋場永尚

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太

（9人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）木村乃

（団体推薦者）安藤建子、越川竹晴、鈴木和彦

（一般公募者）林暁男、八木幸市 （6人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 海岸地域の振興について

- ・海岸侵食や住宅基盤整備など、基本的な問題を抱えている中での「振興」は難しい。特に、海岸侵食は深刻な問題で、地元の人にとっては「生まれ育った場所がなくなってしまう」という感覚があるのではないか。海岸地域のあり方について、地元住民の考え方を聞く必要がある。
- ・今までヘッドランドなどの侵食対策は行っているものの、実際に侵食を防ぐことはできていない。財政上の問題もあるが、国・県に引続き要望し、侵食対策を継続しながら、長期的な視点で新たなまちづくりの計画（マスタープラン）を作っていかなければならない。
- ・海岸付近には自転車道路（サイクリングロード）がある。都市住民にとっては魅力的な場所で、駐車場やトイレ等の環境整備を行えば、サイクリングスポットとして人を呼び込むことができるのではないか。
- ・少子化が進み、全国的に人口が減少していくことは間違いない。今まで日本の社会は人口が増えることを前提に各種の計画を立ててきた経緯がある。人口減少対策も重要だが、減少していくことを前提としたまちづくりも考えていく必要がある。

(2) 里山・檀林フォーラムの開催について

- ・例えば、豊和地域で活動しているアルカディアの会は、土地を借りて農業体験や里山保全活動などを通じて都市住民を呼び込んでいるが、それだけでは経済的価値を生み出さないなので、生業としていくのは難しい。しかし、そこには環境保全などとともに、それぞれの生きがいを見つけるような人生観があるので、里山について議論する場合は、様々な考え方や価値観からアプローチしている点も考えないといけない。
- ・フォーラムの目的は、現在、里山地域で主体的に活動をしている人や団体にどんな人がいて、まちづくりの仕組みの中にどのように位置付けることができる

のか、また、そういう人たちの掘り起こしを行うために実施する。

- ・技術的なまちづくりの仕組みは会議で考えることができるが、この先、里山として実際に管理していくこととなった場合、地元の人やNPOなどの協力が必要になってくる可能性がある。
- ・フォーラムの日程や内容については、おおむね資料に提示した案のとおりとし、9月18日（日）の実施に向けて、詳細を委員長と事務局で詰めていく。
- ・市の文化財について、公文書も単に行政文書として年数で廃棄するのではなく、文化財や歴史的史料という位置づけで、価値のあるものとして保管すべきである。匝瑳市として、文化財的な資料、史料、自然科学的な資料の保存などを考えた方がいいのではないか。
- ・以前、委員から旧飯高小学校の施設を博物館のような展示スペースとしてはどうかという意見があったが、飯高地区でも檀林などの資料を展示する場所がないので、資料館的なスペースがほしいという意見は出ている。

（3）その他

- ・次回会議は9月29日（木）19時から八日市場ドーム選手控室で行う。
- ・総合計画中期基本計画の策定に向けて、戦略会議の委員から意見をいただく。市役所内での修正作業が整い次第、委員へ冊子を配付する。9月中旬ぐらいを目安に出された意見を集約し、戦略会議からの意見として計画への反映を検討する。

4 閉 会